

7 まずは、^{なえ}苗をつくろう

タマネギは、まず^{なえ}苗をつくってから、それを畑に^{はたけ}植えかえて育てるんだよ。苗づくりには、まず^{なえ}苗床の^{なえどこ}準備が必要だ。タネまき前に早めに準備にとりかかって、苗床の土をつくっておくんだよ。場所は水かけや^{じゅんぴ}手入れに^{ひつよう}便利な場所を選ぼう。とくにインゲンやソラマメ、ダイズなどマメの仲間をつくつた畑には、^{ばしょ}立枯れ病の菌が多いから、苗づくりには不向きだ。また^{なえどこ}雑草がたくさん生えていたあとの苗床には、ネキリムシやヨトウムシなどの被害が多いから気をつけよう。湿気の多い場所や酸性の強い土壌も不向きだよ。

^{なえどこ}苗床づくり

タマネギをうまく育てるには、よい^{なえ}苗をつくるのがだいじだ。そろった^{なえ}苗をつくるには少し多めに苗を準備して、よい^{なえ}苗だけを植えるようにしよう。だから、苗床の面積は、やや広めに用意するほうがいいよ。苗は、植えつける畑の面積^{はたけ}10平方メートルあたりに280本が必要で、予備の^{なえ}苗25本、あわせて300本ほどを準備するには、苗床の面積は0.5平方メートルほど必要だ。タネまき予定日より20日前に、苗床予定地をよく^{たがや}耕し、^{くど}苦土石灰100グラムをむらがないようにふり、よく熟した堆肥2キロをばらまき、そのあと土とよくまざるように耕しておこう。10日ほどたってから、元肥としてリン酸、カリの多い化成肥料（10：20：20）1キロを均一にふり、軽く耕して、土となじむようにしよう。あとは^{はば}うね幅90センチ、高さ10～15センチの床をつくる。床面はよくならしてから、ポリフィルムをかけて、床面が乾きすぎず、雨にもあたらないようにしておこう。

タネ^{つち}にかける土も準備

タネまきのあとに、タネの^{うえ}上にかける土も用意しておこう。土が重たかったり、雨でかたくなると発芽しにくくなるので、できれば、よく熟した堆肥の多い土に、もみがらくんたんなどを30パーセントほどまぜあわせた土を1リットルぐらい準備しておこう。





まき時期とまき方

9月^{がつ}中^{ちゅう}旬^{じゆん}から下旬^{げじゆん}がタネまきの時期^{じき}だ。苗^{なえ}を育てる期間^{きかん}は55~60日^{にち}ぐらい。あまり長^{なが}く苗床^{なえどこ}に苗^{なえ}をおきすぎると植えつけ後の生^{せい}長^{ちやう}が悪^{わる}くなるよ。タネは、すじまきのほう^{さぎやう}が、作業^{さぎやう}がやりやすく、あとの手入れ^{てい}が便利^{べん}だ。苗床^{なえどこ}に10センチ間^{かん}隔^{かく}で幅^{はば}1センチ、深^{ふか}さ5ミリのまきすじをつくり、タネまきしよう。3グラムほどのタネを小皿^{こざら}に用意^{ようい}し、指先^{ゆびさき}でつまんで、長さ90センチのまきすじ^なに70粒^{つぶ}くらいずつ、ムラのないようにまいていこう。準備^{じゆんび}しておいた土^{つち}を、タネまき後^ごにみぞがみえなくなるくらいにかけておこう。土^{つち}をかけたら、たっぷり水^{みず}をやろう。水^{みず}やりが少^{すく}なくて、発芽^{はつが}するまでに乾^{かわ}くと発芽^{はつが}しないので注意^{ちゆうい}しよう。水^{みず}やり後は乾^{かわ}かないように、黒^{くろ}の寒冷紗^{かんれいしや}などでおおっておくといいね。発芽^{はつが}するまでの水^{みず}やりは寒冷紗^{かんれいしや}の上^{うへ}からでもいいよ。

発芽後の手入れ

タネまき後^ご7日^かもすると芽^めがでてくるよ。1~2ミリの伸^のびたら、寒冷紗^{かんれいしや}を芽^めを傷^{いた}めなようにとりのぞこう。とりのぞくのは朝^{あさ}よりも夕方^{ゆうがた}がいい。それから水^{みず}をやろう。根^ねがみえているときは土^{つち}をかけておく。苗^{なえ}の育^{そだ}ちがいいよ。たくさん芽^めがあるところは、苗^{なえ}が重^{かさ}なりあわないように間引^{まび}こう。間引^{まび}きは、本葉^{ほんば}2~3枚^{まい}ごろと5枚^{まい}ごろに行^いなうよ。本葉^{ほんば}5枚^{まい}のときは苗^{なえ}の間隔^{かんかく}が1センチくらいになるように間引^{まび}こう。水^{みず}やりは土^{つち}の表^{ひょうめん}面^{めい}が乾^{かわ}いたらやろう。発芽^{はつが}後^ご本葉^{ほんば}1~2枚^{まい}ごろまでに、水^{みず}をやりすぎると、苗立^{なえたち}枯^{かわ}れ病^{びよう}になってパタパタと倒^{たお}れるので注意^{ちゆうい}しよう。本葉^{ほんば}5枚^{まい}以降^{いこう}は水^{みず}やりをひかえ、とくに夕方^{ゆうがた}の水^{みず}やりを少^{すく}なくして、苗^{なえ}の伸^{のび}びすぎを防^{ふせ}ぐんだ。水^{みず}やりで床面^{とこめん}の土^{つち}が流^{なが}れたら、間引^{まび}き後^ごに3~5ミリほど土^{つち}をかけておく。苗^{なえ}の育^{そだ}ちがよく、雑草^{ざっそう}も少^{すく}なくなるよ。雑草^{ざっそう}が多いと苗^{なえ}の育^{そだ}ちが悪^{わる}く、病氣^{びようき}がでてくるので、雑草^{ざっそう}は大きくなるまえに、早^{はや}めにぬくんだよ。